

参加者氏名：稗田 実人

卒業年：2003年 卒業学部：経済学部

「現地を訪問して思うこと」

宮城県コース、岩手県コースには既に参加させて頂いており、それらのツアーの中では、地震・津波による壊滅的な被災地の状況を生で肌で感じ、見て、本当に衝撃を受け学習させて頂きました。

そして今回の福島県ツアーではその2つのコースの現地で見て体感したこと以外に「原発」による壊滅的な状況・現実を絶対に学習させて頂きたいと思い参加させて頂きました。

実際に福島県の被災地に行ってみると、町が地震・津波・「火災」・「原発」により壊滅的になっていることがわかりました。その中でも特に印象に残ったことは、バスから本当に遠くに「小さく」見えた東京電力の原子力発電所の放射能の為に、今回伺った浪江町はゴーストタウンと化して、町（家屋・土壌）は残っているのに、今後が見えない状況が続いているということでした。正直、何とも言えない気持ちになりました。

私自身、これまで原子力は決して兵器等ではなく、エネルギーとしては必要なのかなと漠然とした思いはありましたが、今回のツアーを通してTV、新聞等で度々耳にする「反原発」の意味が直感的にわかった気がしました。おそらく今回のツアーに参加させて頂けなければ「反原発」の意味が今後わからないままになっていたと思います。

今回のツアーを通して、福島県を含む東北・東日本の被災地は一日・一時間・一分・一秒でも早く復興して頂きたいのと、またその為にも今回の東日本大震災を決して風化させず、私自身も少しでもその力になれることを今後も探していきたいと改めて思いました。

最後に、この度は福島県の校友会の皆様、またその他の方々から貴重なお話を頂き、また貴重なお時間を共にさせて頂きまして、ありがとうございました。